

70th
Anniversary

FUTAMURA
CSR Report 2018

平成29年度版

フタムラ化学
CSRレポート

2017年4月～2018年3月

「安全・安心」をお届けする「フタムラ化学」

FUTAMURA
CSR Report 2018

※この報告書は再生紙および、石油溶剤の割合が少なく生分解性に優れた植物油インキを使用しています。
また、有害物質を含む湿し水を使用しない水なし平版印刷を採用しています。



70年の歴史

理想つらぬくフタムラ化学

フタムラ化学は、活性炭事業、セルロース事業、プラスチックフィルム事業、フェノール積層板事業、糖質事業などと事業の範囲を拡大してきました。

コア事業のプラスチックフィルム事業では、マレーシアの会社に出資して日本品質の製品を生産できる工場を設立し、セルロース事業ではイギリス、アメリカにも工場を持ち、フィルムのグローバルな安定供給体制を整えています。

活性炭事業では、活性炭フィルターや医薬品などの高付加価値品の比率を高めることと並行して、バイオマスエネルギーシステムの開発などの設備分野に進出しました。

今後もより良いものを造るよう研究努力し、製品を通じて社会貢献を行って参ります。



CONTENTS [目次]

事業・経営報告

- 1-2 70年の歴史、目次
- 3 社長ごあいさつ
- 4 フタムラ化学の理念
- 5-6 フタムラ化学の事業
- 7-8 フタムラ化学のCSR
- 9-10 製品による社会貢献
- 11 管理体制
- 12 リスク管理、コンプライアンス

環境報告

- 13 事業活動と環境負荷
- 14 環境会計
- 15 大気汚染・温暖化の抑制
- 16 水資源の保護
- 17 化学物質の管理
- 18 廃棄物の管理

社会報告

- 19-20 社会とのかかわり

安全報告

- 21 従業員とのかかわり、安全衛生の取り組み
- 22 防災への取り組み

教育

- 23-24 人材育成

事業紹介

- 25 海外拠点
- 26 国内拠点

会社概要

平成30年3月31日現在

商号	フタムラ化学株式会社
本社所在地	〒450-0002 名古屋市中村区名駅2丁目29番16号
設立	昭和25年10月
代表取締役社長	長江泰雄
資本金	5億円
売上高	717億円
売上構成比	フィルム事業:87% 活性炭事業:10% その他事業:3%
従業員数	1,242名
平均年齢	39歳
営業品目	ポリプロピレンフィルム リニア・ローデンシティ・ポリエチレンフィルム ポリエステルフィルム セロハン ファイブラスケーシング 不織布 活性炭、機能性商品 フェノール積層板 澱粉加工品

社長ごあいさつ

フタムラ化学は、「常により良いものを造るように研究努力し、製品を通じて国家社会のお役に立つ」ことを社是とし、食品包装を中心に幅広くお使いいただいているプラスチックフィルム、セロハンに代表されるセルロース製品、空気や水の浄化や触媒などとして利用される活性炭、工業分野に不可欠なフェノール積層板、特殊な機能を持ったでんぶん関連製品といった事業領域に展開しております。

フタムラ化学は、産業資材を主とした事業を展開しておりますので、消費者の方々の目に直接触れることはありません。しかし、フタムラ化学の製品は、食品、日用雑貨、医薬品、電気製品、自動車をはじめとして幅広い産業でお使いいただいております。お客様に「安心してお使いいただける製品」を「安定した品質」で「安定的に供給する」ことによって、国民の生活を支える「縁の下の力持ち」としての役割を担っていきたくと考えております。

コア事業のプラスチックフィルムは、食品や日用品、薬等の包装に幅広く使われており、中身を衛生的にロスなくお客様のもとに届けるという重要な役割を担っております。このため、安定供給体制の強化には特に力を注いでおります。万一の大規模災害等の際にも安定供給が維持できるように在庫を全国に分散配置するとともに、有事の際にはマレーシア工場からの緊急輸入ができる体制となっております。マレーシア工場は、弊社がマレーシアのScientex Great Wall Sdn. Bhd.に出資をし、技術指導することによってマレーシア国内に日本品質の製品を生産できる工場として建設いたしました。現在は東南アジアおよび日本に向けて高品質な製品を供給しております。

また、最近では、プラスチックの代替として天然素材である木質系パルプを原料とするセロハンが再評価されております。また、欧米ではセロハンに生分解性樹脂をコートし、バリア性とヒートシール性を持った生分解性フィルムであるネイチャーフレックスに注目が集まっております。

フタムラ化学は、海外子会社を含めたフタムラグループとして日本、イギリス、アメリカのセロハン工場の最適生産体制への移行と安定供給体制の強化を進めるとともに、セロハンやセルロース不織布に加え、セルロースパウダー・ビーズなど新たなセルロース製品の開発や、より環境に優しいセルロース加工技術の開発を進めることで、循環型社会に対応し、環境にも優しい素材としてのセルロースの可能性を広げていきたいと考えております。

活性炭事業は、空気や水の浄化など生活環境の向上に役立っておりますが、最近では、さらに機能性を高めてアルデヒドの除去や重金属の除去ができる製品も開発いたしました。これらの製品の販売を通じて家庭や工場などでの環境改善に一層貢献していきたいと考えております。また、子会社である吸着技術工業と連携することでバイオマスから発生するメタンガスを有効利用する研究も進めております。



フタムラ化学株式会社 代表取締役社長

長江 泰雄

以上のように、フタムラ化学は、皆様の生活の向上に役立つ製品の提供や技術開発を進めておりますが、一方で、フタムラ化学で働く社員の健康や安全の確保についても積極的に改善を進めております。

社員が安全に仕事に取り組むことができるよう、安全装置の増強や工場パトロール、見える化などの安全活動を積極的に推進しております。また、各工場では化学物質のリスクアセスメントを推進し、化学物質の管理や保護具の整備を計画的に進めております。

また、企業が持続していくためには、各事業所が地域の一員として地域とともに発展していくということが極めて重要であると考えています。そのため特に環境面には力を注いでおり、法規制を遵守するだけでなく、省エネルギーの推進、二酸化炭素排出量の削減、水資源の保護、自然エネルギーの有効利用といった課題にも取り組んでおります。

フタムラ化学は、ここで働く社員の生活の安定を第一とするということを目標に、事業の安定成長を達成するとともに、職場の安全や社員の健康、地域社会との共存にも積極的に取り組んでまいります。

今後とも、皆さまからのご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

❖フタムラ化学の理念

経営理念 (昭和41年制定)

I 企業経営の理念

1. 人間は働く事が使命である。その使命を達成する場所が、我々としては会社即ち企業である。

2. 企業の持つ使命

企業の持つ使命の重要なものの一つとして、従業員の恒久的な生活の安定と繁栄を生み出さねばならない。これは企業の生み出す利潤によってまかなわれる。そのためには企業そのものが恒久的に安定せねばならない。企業を恒久的に安定するためには、企業を発展拡大することが必要である。現状維持は衰退を導くことになる。即ち企業の恒久的安定と繁栄を確保することは、企業の発展拡大(内容充実を含む)による繁栄が絶対条件である。

3. 人の成長=企業の成長

人の成長と企業の成長は車の両輪の如く、バランスを保ってゆくことが必要である。人を成長させるためには、人の成長をうながす場所や器がなければならぬ。その器が企業であり、企業の成長があって人の成長が実現できるのである。

企業の成長しない所には人の成長はありえない。全社員は一隅を照すものは国の宝である主旨に則り、各々が各自の仕事を成長すべく、努力せねばならない。

成長しない人は落伍者であることを銘記すべし。

4. 和なくして企業の成長は期しえない。不和は企業を破壊する。

II 基本方針

フタムラ化学は企業経営の理念に基づき、全社協力一致、企業の成長、発展を通じて、人間の成長を達成し、国家社会に貢献することを目的とする。

社是 (昭和28年制定)

1. 常により良いものを造るように研究努力し、製品を通じて国家社会のお役に立つ。

1. お互いに助け合うことが和の始めであり、人の和が会社発展の基礎であることを自覚する。

1. 無から有を生む考え方に徹し、併せて常に新しい創意工夫に努め、活々として作業する。

1. 何事をも誠実にこなすものが最後の勝利者であることを自覚する。

社員心得

1. 能力の持主であること
管理・統率能力の実力保持者たること

2. 誠実な人であること
仕事に誠意をもってあたる

3. 努力する人であること
仕事に全力をつくす人であること

4. 責任のとれる人であること
責任ある仕事をする人であること

5. 協力的な人であること
上司・同僚・部下に協力的であること

❖フタムラ化学の事業

I. プラスチックフィルム事業

1. ポリプロピレンフィルム(PP)



①二軸延伸ポリプロピレンフィルム(OPPフィルム)

ポリプロピレンフィルムは、プラスチックフィルムの中で最も比重が軽く、透明性・機械適性・耐薬品性などに優れた、軟包装パッケージの中では現在最も多く使用されているフィルムです。国内トップシェアを有する当社OPPフィルムは、十分な生産能力を備え、安定した品質で安定供給に努めています。多種多様なお客様のニーズに的確にお応えする品種設計により、一般食品包装から機能性・意匠性を高めた包装形態に至るまで、産業用途への広い展開を可能にしています。

②無延伸ポリプロピレンフィルム(CPPフィルム)

国内最大規模の生産能力を有する当社CPPフィルムは、包装構成中のシーラント素材として安定性に優れています。食品包装から産業用途まで、幅広い分野へ展開しています。

③一軸延伸フィルム

高密度ポリエチレン及びポリプロピレンを縦一軸延伸したフィルムです。ひねり適性に優れており、縦方向に裂けやすく、ストレートカット性に富みます。

2. リニアローデンシティポリエチレンフィルム(LLフィルム)



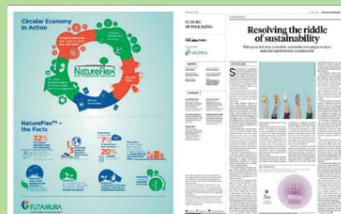
メタロセン触媒技術による高性能直鎖状低密度ポリエチレンを主原料としたフィルムです。シール強度・耐寒性・耐衝撃性・ホットタック性の諸物性に優れ、主に複合フィルム構成のシーラント基材として使用されています。この優れた特性により、冷凍食品、水物包装、米袋などの重量物包装など、幅広く使用されています。

3. 二軸延伸ポリエステルフィルム(PETフィルム)



PETフィルムは、独自の二軸延伸効果によって他のプラスチックフィルムには見られない耐熱性、ガス遮断性、防湿性、強度、透明性など、各特性のバランスがとれたフィルムです。寸法安定性や加工適性に大変優れることから、食品用のラミネート基材から産業資材に至るまで幅広く展開しています。

TOPICS トピックス



英国「THE TIMES」にフタムラ化学の生分解性フィルムである「Nature Flex」が掲載されました。この記事では持続可能なパッケージソリューションが紹介され、Futamuraブランドがトップ記事で掲載されました。

II. セルロース事業

1. セロハン



木材パルプを原料とするセルロースから製造された透明フィルムです。植物由来のフィルムのため、微生物による生分解によって水と二酸化炭素に分解されます。また燃焼による有害物質は発生しません。そのため循環型社会システムへの移行に適したフィルムです。

2. ファイブラスケーシング



ファイブラスケーシングは、これまで輸入に頼っていた畜肉加工用ケーシングを当社が初めて国産化に成功した製品です。マニラ麻から作られた特殊紙に木材パルプからつくられたビスコースを含浸させてチューブ状に製造した素材です。水分及び燻煙の透過度が高く、スモーク加工に最適です。優れた強度、均一な充填口径、高い伸縮性により好評を頂き、国内の畜産加工業界やスモークチーズ加工業界はもちろん、アメリカ・ヨーロッパ・オーストラリアと、海外でもロングセラーになっています。

3. 不織布



木材パルプを原料とするセルロース100%の不織布です。バインダー(接着剤)を使用せず、繊維同士が自己融着することによりシートを形成しているため、不純物を含まず、非常に衛生的です。フェイスマスクやウェットティッシュ、ガーゼをはじめとする医療・衛生・化粧品分野を中心に、食品関連、産業資材など多方面にわたり使用されています。

III. 活性炭事業

活性炭フィルター



木材やヤシ殻、石炭などを原料としてできた活性炭を様々な形状に加工しています。活性炭は大きな吸着力を有することから、空気中や水中の汚れの吸着に活用することで我々の生活環境改善や自然環境の保護に役立っています。また再生処理することにより繰り返し使用することができます。

IV. フェノール積層板事業

フェノール積層板



フェノール積層板は、発売以来その優れた加工性と物理的特長により、電子部品、電気機械の絶縁材料及び構造材料として、幅広く使用されています。お客様のニーズに合わせた特殊品の開発も積極的に行い、好評を得ています。

❖フタムラ化学のCSR

フタムラ化学は、「品質・安全・環境」は企業の持つ重要な使命として、「品質・安全・環境に関する行動指針」を定め、真剣に取り組んでいます。

品質・安全・環境に関する行動指針 (平成13年4月制定)

1. 基本方針

当社は「安全な品質で、安心して使用されるものを、安定的に」を基本に、製品造りを通じて社会に貢献する。「品質・安全・環境」は企業の持つ重要な使命として行動指針を定め真剣に取り組む。

2. 行動指針

- (1) 法規、協定・契約の遵守を最優先し、必要ある時は法規以上の自主管理をする。
- (2) トラブルは起こり得るものとして、未然に防ぐために、それぞれ責任ある対応をする。
- (3) 常に、創意工夫と技術の向上に努め、継続的改善を図る。
- (4) 製品の製造・使用・廃棄のライフサイクルにおける品質・安全・環境への配慮に努める。
- (5) 品質保証への取り組みとして「ISO9000」の更なる定着化と有効活用を図る。
- (6) 安全への取り組みとして全社的に労働安全衛生、防災活動を展開し、各人の意識高揚を図り、「ゼロ災害」で職場の安全確保を目指す。
- (7) 環境への取り組みとして「ISO14000」認証取得により継続的環境改善を推進する。

コンプライアンス憲章 (平成18年10月制定)

経営理念・社是に則った活動をし、関係法令を遵守することにより恒久的な発展を目指します。

1. 法令遵守

国内外の法令、会社の規則を遵守し、健全な社会の一員として行動します。

2. 安全な商品の提供

安全な品質で、安心して使用されるものを、安定的に供給します。

3. 公正な競争

国内外の事業活動において、自由で公正な競争と誠実な職務に努めます。

4. 節度ある行動

社内外を問わず、業務を遂行するにあたり「公私のけじめ」を厳格にし、常に節度を持った関係を保ちます。

5. 企業情報の提供

企業情報を正しく開示することに努め、広く社会との円滑なコミュニケーションを行います。

6. 地域社会との交流

地域社会の一員として、地域社会との交流を深め、社会活動への参加などを通じて広く社会貢献に努めます。

7. 環境問題への取り組み

安全の確保と地域環境の保全に自主的、積極的に取り組みます。

8. 人権の尊重

人権を尊重し、健康で明るく働きやすい職場を作ります。

9. 海外進出先での経営

国際ルールや世界の各地域における法律、規制習慣を遵守します。

10. 適切な情報開示

知的財産や個人情報の価値を認識し、適正な管理を実行します。

国連グローバル・コンパクト(UNGC)は、各企業・団体が責任ある創造的なリーダーシップを発揮することによって、社会の良き一員として行動し、持続可能な成長を実現するための世界的な枠組み作りに参加する自発的な取り組みです。

フタムラグループは、2018年7月にUNGCへの賛同を表明いたしました。



2015年9月、国連総会は、より良き将来を実現するために今後15年かけて極度の貧困、不平等・不正義をなくし、私たちの地球を守るための計画「アジェンダ2030」を採択しました。この計画が「持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals: SDGs)」です。

フタムラグループの事業活動において、SDGsに基づき当社が果たすべき目標を掲げ、達成に向けた取り組みを推進いたします。



課題	目標	該当するSDGs
温室効果ガス排出量	2016年度基準で2021年度までに5%削減	3 すべての人に健康と福祉を、11 住み続けられるまちづくりを、12 つくる責任、13 気候変動に具体的な対策を
用水量	2016年度基準で2021年度までに5%削減	6 安全な水とトイレを世界中に、11 住み続けられるまちづくりを、12 つくる責任、15 陸の豊かさも守ろう
化学物質管理	2016年度基準で2021年度までに10%削減	3 すべての人に健康と福祉を、11 住み続けられるまちづくりを、12 つくる責任、14 海の豊かさも守ろう、15 陸の豊かさも守ろう
廃棄物管理	リサイクル率95%以上	3 すべての人に健康と福祉を、11 住み続けられるまちづくりを、12 つくる責任、14 海の豊かさも守ろう、15 陸の豊かさも守ろう
労働災害	ゼロ	3 すべての人に健康と福祉を、8 働きがいも経済成長も

その他のフタムラ化学の基本方針

名称	制定年	目的
個人情報保護基本方針	平成27年	個人情報の適切な保護
特定個人情報保護基本方針	平成27年	特定個人情報などの適切な取り扱いの確保を組織として取り組む
情報セキュリティポリシー	平成27年	社内の情報システム全ての保護

Futamura

Products 太閤ブランド商品

フタムラ化学の発祥の地、愛知県名古屋市中村区は、かの太閤・秀吉が誕生した地として知られています。フタムラ化学では「太閤ブランド」として、すべての製品に「太閤」を冠し、秀吉と同じく日々努力と研摩を重ねていることを表明しています。
世界にはばたき、歴史にその名を残したい...、そんな願いが込められた「太閤ブランド」です。

3 不織布



制汗用シート、フェイスマスクなどの衛生材料・化粧品用途やガーゼ、絆創膏などの医療分野など高い安全性と吸水性を活かした商品に使用されています。



1 プラスチックフィルム



米・パン袋、生鮮食料品、スナック菓子、冷凍食品などの食品関係や、身の回りの日用品の個包装及び外装に使用されています。

2 セロハン



セロハンテープや、飴、チョコレートなどの個包装といった食品用途の他に、薬袋などの医薬品にも使われています。

果樹園 8

ビニールハウス 8

スーパー 1 2 3 4 5

工場 5 6

浄水場 5

コンビニ 1 2 3 4 5

薬局 2 3 5 7

8 アグリ製品



ハウス栽培の壁材や果物栽培の土壌の上に敷く光合成促進用シートとして使用され、作物の商品価値を高めるのに役立ちます。

4 ファイブラスケーシング



食品加工用ケーシングとして、国内外の畜産加工品や水産加工品に使用されています。

5 活性炭



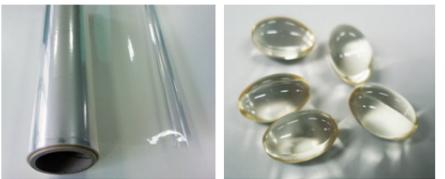
食品・医薬・上水道分野での脱色精製や、下水道の浄化に使われます。脱色・脱臭を目的とする工程や用途に幅広く活用されています。

6 フェノール積層板



電子部品や車載関連部品、電気機械用の絶縁材料や構造材料として、多岐にわたり使用されています。

7 糖化製品



可食性フィルムやソフトカプセル基材として利用され、油性食品の保護フィルムや機能性材料の担持材として使用されています。

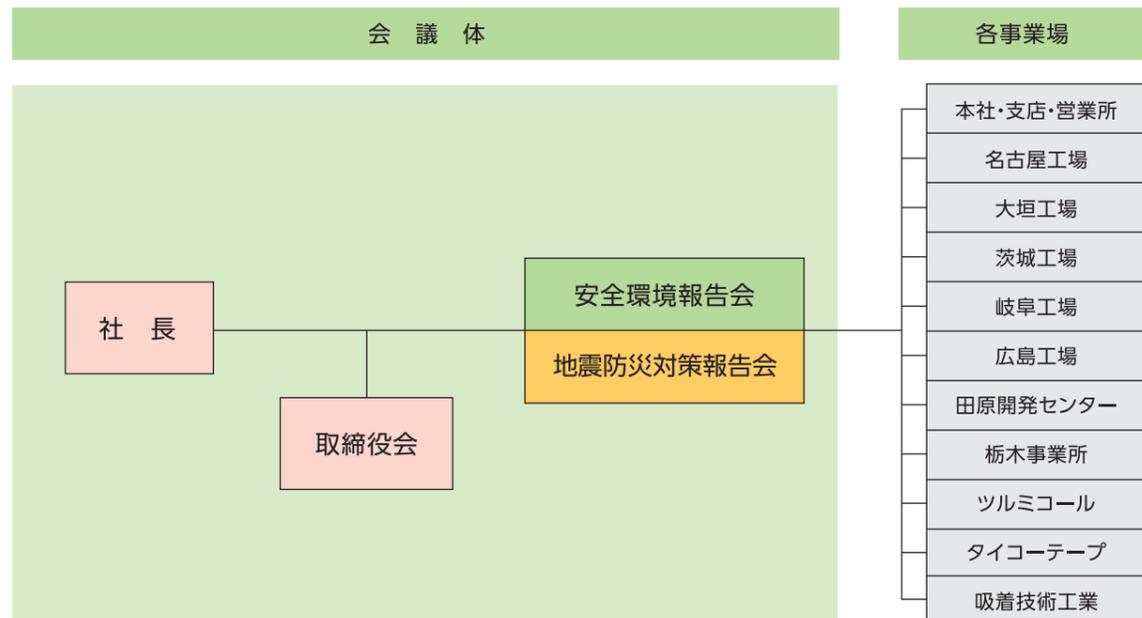
❖管理体制



安全・衛生・環境・防災に関する管理規程を制定し、事故・災害の未然防止、遵法管理に尽力します。

■組織体制

平成26年に安全環境等管理規程を制定し、社長、安全環境担当役員、各事業所安全環境管掌役員、安全環境部、各事業場長、安全・衛生・環境・防災担当からなる組織を運営しています。



定期的に安全環境報告会、地震防災対策報告会を開催し、年度方針への取り組み状況、遵法管理状況のレビューなどを行って、管理体制の継続的改善を行っています。

■環境管理体制

●環境マネジメントシステムの取得

環境マネジメントシステムについては、ISO14001を7工場、エコアクション21を1工場で取得しています。各工場内の内部監査、本社安全環境部による監査を有効に活用して、社内の環境改善活動を展開しています。

●エネルギー管理指定工場

工場の規模に応じて5工場が第一種、1工場が第二種指定を受けています。毎年目標を立てて省エネ活動を展開し、全社の活動状況を毎年関係行政機関に報告しています。

●環境関係の資格取得

従業員に各種の国家資格取得を推奨しています。各工場の遵法及び災害予防を推進していく人材の育成を進めています。

資格取得で得た知識を業務に活用し、管理技術の向上に努めています。

❖リスク管理



■主なリスクと主管部門一覧

危機管理リスク		本社(本社)	工場
製品事故・製造物責任	製品事故・クレーム	安全環境部	品質管理部門
	製品の規制・法令への準拠	安全環境部	品質管理部門
事業活動に伴う事故・災害	基幹システム関連事故	情報システムG	—
	労災・交通事故など従業員の人身事故	安全環境部	総務・安全環境部門
	債権関連事故	情報システムG	—
	個人情報漏洩	情報システムG	総務部門
	営業秘密の漏洩	開発知財部	—
	火災・爆発による事故・災害	安全環境部	生産・安全環境部門
	労働安全衛生法、消防法などへの準拠	安全環境部	総務・安全環境部門
誹謗・中傷・その他犯罪被害	社内システムへのサイバーテロ、不正アクセス、個人・社内情報漏洩	情報システムG	—
	対企業暴力(脅迫、誘拐、強盗)	総務人事部	総務部門
反社会的勢力との関係	反社会的勢力からの不当要求、取引先と反社会勢力との取引	総務人事部	総務部門
自然災害	地震、風水害、落雷などによるお客様及び会社資産の損害、人身事故	安全環境部	総務・安全環境部門
外部発注における法令違反	下請け法違反、取引先との不正取引	調達部、総務人事部	資材・総務部門
知的財産権侵害	特許・商標・著作権侵害	開発知財部	開発部門
環境問題	環境関連法令基準違反、産業廃棄物処理違反	安全環境部	環境部門
海外事業活動におけるリスク	製品事故など	担当営業部門	生産部門
	為替リスク	GB統括、財務G	—
	移転価格など税務リスク	GB統括	—

企業を取り巻く環境が変化していく中、どんな企業でも不測の事態が起こる可能性は否定できません。社会から信頼される企業として事業を継続していくために、事業活動に伴うあらゆるリスクに対する未然予防と万が一発生した場合の損失、社会への影響を最小限に抑えるため、リスク低減に努めています。

❖コンプライアンス



■コンプライアンスの取り組み

コンプライアンス(法令及び企業倫理の遵守)は、事業継続の根幹をなすものであることから、平成18年にコンプライアンス規程憲章、管理体制、相談・報告制度等を定め、運用しています。

平成29年度に受け付けた2件の報告相談に関しては、コンプライアンス規程に基づき適切に対応しました。

■法令遵守

田原開発センター 糖液漏洩事故(6月)

開発センター屋外糖液タンク洗浄後、排水バルブ作動不良のため、糖液を送液の際に漏洩し、一部が開発センター敷地外に流出しましたので、直ちに対処及び関係行政機関に連絡して対応しました。近隣及び関係者様には多大なご迷惑をおかけしました。

再発防止対策として、手順見直し、再教育の他、設備のインターロック、警報などの設備対策を実施し、関係行政機関に報告しました。

事業活動と環境負荷

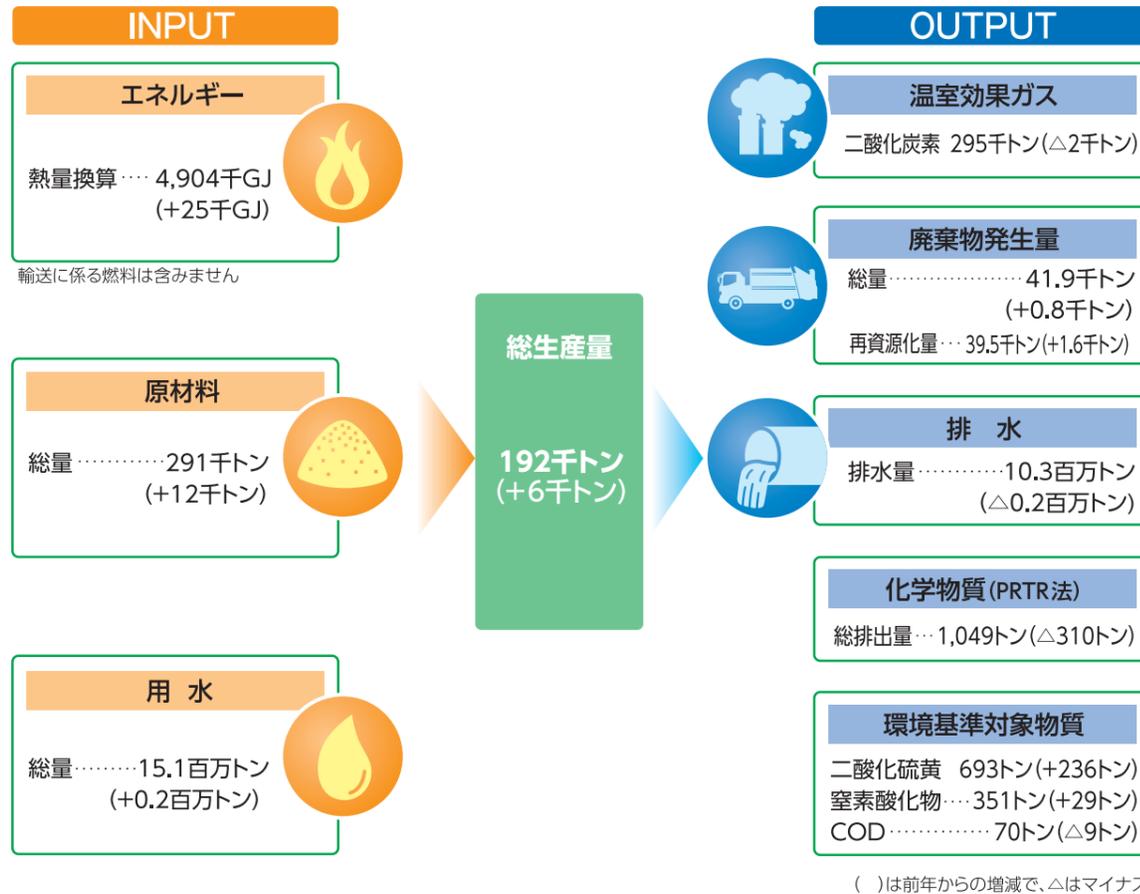


平成29年度(2017年度)の実績状況と評価

評価:○目標達成、△取り組みするも目標未達成、×取り組み不十分

項目	中期環境目標	2017年度実績状況	評価	参照
温室効果ガス削減	2016年度297千トン/年を基準に、2021年度までに二酸化炭素排出量を5%削減する。	2017年度291.6千トン/年、2016年度比1.8%減で達成	○	P15
水資源	2016年度14.9百万トン/年を基準に、2021年度までに水使用量を5%削減する。	2017年度15.1百万トン/年、2016年度比1.5%増加で未達	△	P16
化学物質管理	2016年度を1,354トン/年基準に、2021年度までに二硫化炭素排出量を10%削減する。	2017年度1,042トン/年、2016年度比23%減で達成	○	P17
廃棄物管理	リサイクル率95%以上を毎年維持する。	2017年度リサイクル率94.4%で未達	△	P18

フタムラ化学の平成29年度の事業活動と環境負荷



環境会計



平成29年度活動概要

環境保全コスト

単位:百万円

項目	主な内容	平成28年			平成29年			前年差
		投資額	費用額		投資額	費用額		
			減価償却費	維持運営費		減価償却費	維持運営費	
公害防止	大気汚染、悪臭防止コスト	24	72	250	15	60	318	47
	水質汚濁防止コスト	147	158	419	164	146	429	15
	その他の公害防止コスト	2	12	1	14	10	0	9
地球環境保全	地球温暖化防止コスト	42	184	9	8	146	16	△65
	その他の公害防止コスト	4	10	0.3	1	8	0	△5
資源循環	廃棄物適正処理に関わるコスト	0	208	419	0	150	417	△60
上・下流	容器リサイクル法	0	0	1	0	0	2	1
管理活動	ISO維持、教育、分析などのコスト	0	0	50	0	0	63	13
社会活動	地域の環境保全活動コスト	0	0	7	0	0	6	△1
環境損傷	賦課金・保険料	0	0	139	0	0	321	182
合計		219	644	1,295	202	520	1,572	136

環境保全効果

項目	主な内容	単位	平成28年	平成29年	前年差
エネルギー	総エネルギー使用量	千GJ	4,879	4,904	25
大気	CO ₂ 排出量	千トン	297	295	△2
	NOx排出量	トン	322	351	29
	SOx排出量	トン	457	693	236
	ダイオキシン排出量	mg-TEQ	1.6	3.2	1.6
水質	水使用量	百万トン	14.9	15.1	0.2
	排水量	百万トン	10.5	10.3	△0.2
廃棄物	埋処分量	千トン	3.0	2.4	△0.6

経済効果

単位:百万円

項目	内容	平成28年	平成29年
収益(有価物)	硫黄品目	65	80
	製品屑類、他	511	564
	合計	576	644
費用節減	エネルギー費の節減(前年比較)	134	1,694
	廃棄物処理費の節減(前年比較)	16	△30
合計		150	1,664
前年対比効果合計		-	△1,596

*活性炭再生事業は含みません。*エネルギー費は全てA重油に換算し算出

排水濃度測定結果

工場	項目	pH	COD	BOD	SS	窒素	リン
名古屋工場	規制値	5.8~8.6	30	30	40	10	2
	平均値	6.9	5.5	3.4	2.6	1.0	0.2
大垣工場	規制値	5.8~8.6	30	20	30	25	1.5
	平均値	6.9	6.6	3.3	11	8.1	0.1
茨城工場	規制値	5.8~8.6	20	20	30	45	6
	平均値	8.0	3.7	4.0	1.4	1.8	0.2
岐阜工場	規制値	5.8~8.6	28	100	70	35	1.8
	平均値	6.9	1.1	1.6	2.1	2.2	0.1
広島工場	規制値	5.0~9.0	/	600	600	/	/
	平均値	6.8	65	47	42	/	/
田原開発センター	規制値	5.8~8.6	20	20	20	10	3
	平均値	8.0	4.4	1.3	2.0	0.6	0.1

*斜線箇所は測定対象ではないため、測定していません。

排ガス濃度測定結果(主な排ガス発生設備)

工場	測定対象設備	ばいじん g/Nm ³		二酸化硫黄 Nm ³ /H		窒素酸化物 ppm	
		規制値	平均値	規制値(一例)	平均値	規制値	平均値
名古屋工場	ボイラー(ガス燃料)	0.10	0.01未満	/	/	130	27
	ボイラー(ガス燃料)	0.10	0.01未満	/	/	130	21
大垣工場	ボイラー(石炭燃料)	0.10	0.04	75	15	250	90
	ボイラー(重油燃料)	0.20	0.03	55	4.2	150	93
	ボイラー(重油燃料)	0.20	0.04	55	7.3	150	100
	焼却排ガスボイラー	0.15	0.01未満	48	8.0	250	47
茨城工場	ボイラー(重油燃料)	0.30	0.01未満	1.8	0.1	180	100
	ボイラー(ガス燃料)	0.05	0.01未満	/	/	200	72
岐阜工場	集合煙突	0.15	0.02	65	0.1未満	180	45
広島工場	集合煙突	/	/	16	0.4	/	/

❖ 大気汚染・温暖化の抑制

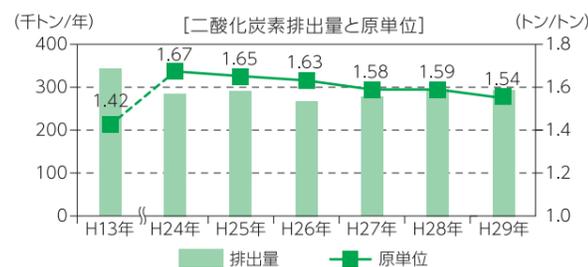


省エネ機器への更新や貨物輸送方法の見直しにより、環境負荷の低減を図っています。

■ 地球温暖化防止への取り組み

各工場で省エネ機器への更新などにより、生産効率の向上を図り、エネルギー使用原単位を削減することができました。

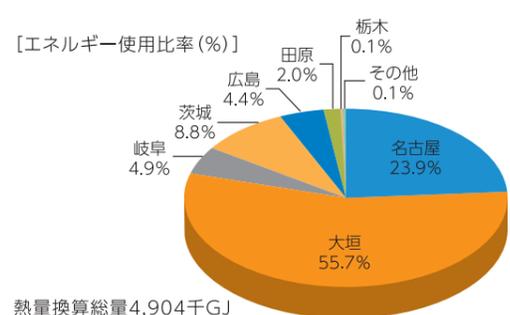
今後も、エネルギー効率の良い生産に努めていきます。



■ 省エネルギー

生産量が増加したことにより、全社のエネルギー使用量は108千kL(原油換算)と増加しました(前年度比102%)。

エネルギー使用原単位では前年度比99.2%でしたが、5年度間平均としては97.6%で、年平均1%以上のエネルギー削減を達成できました。



熱量換算総量4,904千GJ

エネルギー使用原単位(対前年度比)

年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	平均
比率 (%)	99.4%	94.8%	97.1%	99.2%	97.6%

TOPICS トピックス

日本物流団体連合会・第19回物流環境大賞の特別賞として当社と物流を委託しているセンコー株式会社様と合同で受賞しました。

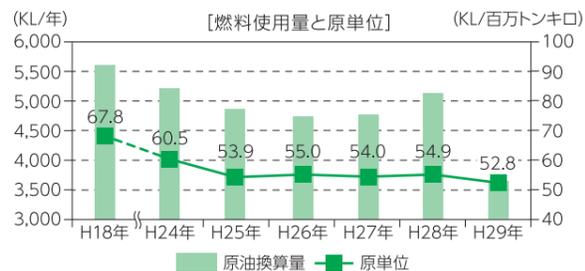
モーダルシフトを基軸とした二酸化炭素削減、物流効率化が評価されました。



■ 省エネ法における荷主に係る措置

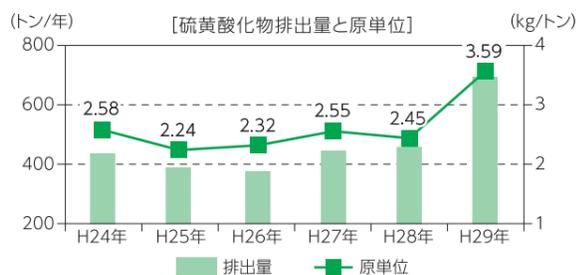
貨物輸送に係るエネルギーの使用の合理化を図るため、モーダルシフトを推進し鉄道貨物輸送比率が高まったことにより、平成29年度は原油換算燃料使用量が3割ほど削減できました。

輸送業者との連携を深め、より効率の良い輸送を目指して改善していきます。

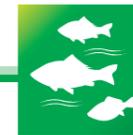


■ 環境基準対象物質(大気)

大垣工場で生産量増加により石炭、C重油の使用量が増加しました。また、排水処理工程から発生した汚泥に含まれる硫黄分が、前年より多く含有されており、この排水汚泥の自家焼却量も増加したことによって、硫酸化物の発生量が増加しました。



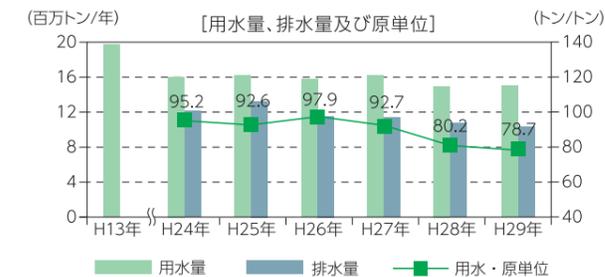
❖ 水資源の保護



排水処理設備の維持管理、改善工事の実施により、水資源の保護に努めています。

■ 用水の削減

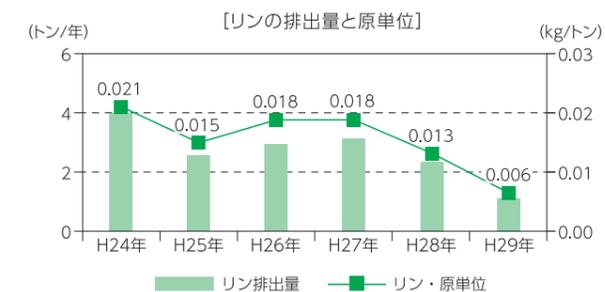
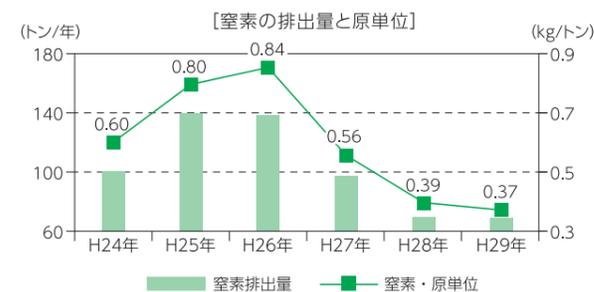
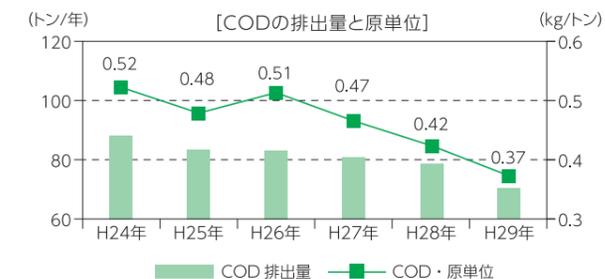
平成29年度は生産量が6千トン(前年比3.1%)増加に対し、用水量が0.2百万トン(前年比1.3%)増加、排水量が0.2千トン(前年比2.4%)減少したことにより、用水原単位を約2%改善することができました。



■ 富栄養物質の排出抑制

各工場における排水処理工程の安定稼働により、富栄養物質である窒素、リンを排水中から除去しています。排水中のリンは前年度比53%削減することができました。

COD、窒素、リンの生産量あたりの排出原単位も前年実績以下まで下げることができました。



■ 排水関係の改善工事

各工場で漏洩防止、監視強化のための設備の修理・更新、増強を実施しました。



沈殿槽の補修(広島工場)

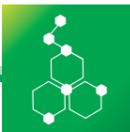


防液堤設置(田原開発センター)



TOC計の設置(名古屋工場)

❖ 化学物質の管理



化学物質を適切に管理し、排出量の減少を推進しています。

■ 化学物質管理

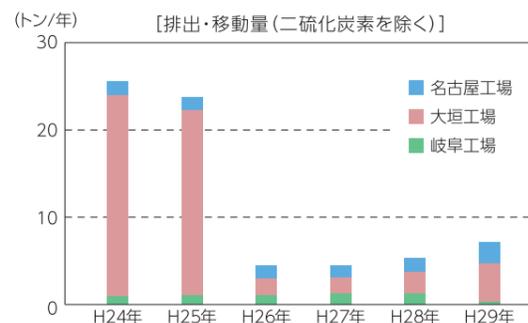
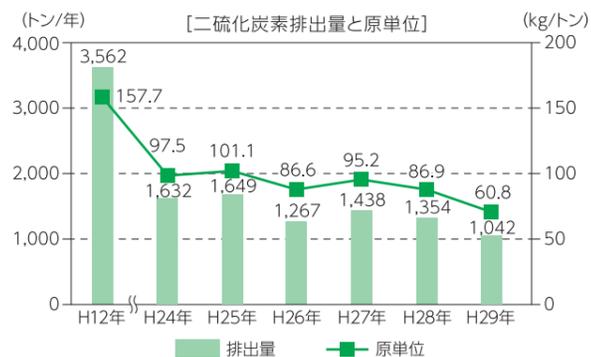
平成29年度は1,042トン/年の二酸化炭素排出量で、前年を下回りました。

排ガス処理設備の処理効率アップなどにより、二酸化炭素の回収量が増加し、大気中への排出量が減少しています。

二酸化炭素を含めたPRTR対象物質の合計排出量は年々削減することができています。

平成29年度は7.3トン/年の排出・移動量で、前年より増加しました。

大垣工場において不織布の生産量が増加し薬品使用量が増えたためです。今後も薬品使用の合理化を図り、使用量の削減を進めます。



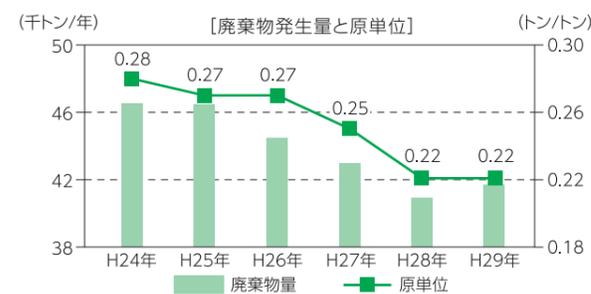
❖ 廃棄物の管理



廃棄物の発生量抑制、再資源化に努めるとともに、排出者責任を果たすため処分委託業者の視察を継続して行っています。

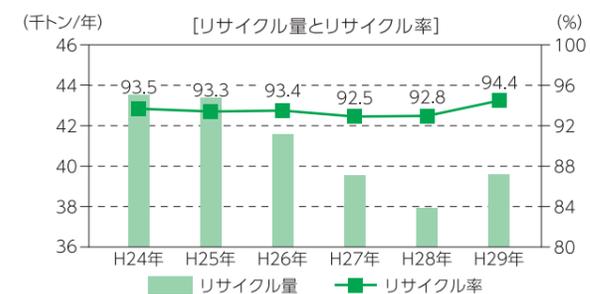
■ 廃棄物発生量

廃棄物発生量は前年度比で2%増加しましたが、生産量が増加したため、原単位では横ばいの結果でした。



■ 再資源化(リサイクル)状況

再資源化量は前年度比で2千トン弱増加しました。リサイクル率は前年よりも向上して94.4%となりましたが、目標である95%には未達でした。今後も一層の分別、再資源化の強化に努めます。



■ 産業廃棄物の管理

各工場から発生した廃棄物は、収集運搬及び処分の許可を受けている処分業者に委託して処理を行っています。排出した産業廃棄物が適正に処理されているか、処分業者の現地視察を定期的実施しています。



環境苦情他

■ 化学物質管理

最近の5年間は苦情発生件数は減少傾向であり、環境苦情ゼロを目指して日々の工場運営に努めています。

しかし平成29年度は2件発生し、いずれも工場騒音によるものでした。機器整備後の確認不足が原因であり、整備後の点検・確認を徹底します。



■ 薬液漏洩について

平成29年度は、薬液配管破損などによる薬液漏洩が6件発生しました。1件は外部への漏洩であり、関係行政機関の指導の下、適切に対処しました。その他の5件は場内での発生であり、工場外部への影響はありませんでした。

【田原開発センター】

- ①バルブ作動不良により糖液が漏洩したため処置しました。

【大垣工場】

- ②配管が破損し次亜塩素酸ナトリウムが漏洩したため処置しました。
- ③廃液ピットを清掃中に油混じりの廃液がこぼれたため処置しました。
- ④バルブ操作不良により柔軟剤が漏洩したため、排水処理場にて適切に処理しました。
- ⑤薬品回収装置が停止したため排水中の窒素分が増加しましたが、排水処理場にて適切に処理しました。

設備改善、日常点検・定期点検の見直しを行い、漏洩事故ゼロを目指します。

❖ 社会とのかかわり



地域活動参加によるコミュニケーションや、就業体験及び展示会出展を通じて当社の事業活動を幅広い世代に理解していただけるよう心がけています。

■ 地域清掃活動

大垣工場では、市主催の『歩いて観よう水門川クリーン作戦&川底学習会』に参加し、川をせき止め、浅瀬になった川底の清掃を行いました。

田原開発センターでは市開催の『美しくする推進デー』、岐阜工場では国土交通省主催の『川と海のクリーン大作戦』の清掃活動に従業員が参加しました。

また名古屋工場では、自主的に工場周辺の道路清掃を毎月行いました。



■ 就業体験等

学生の就業体験、地域の学生の工場見学などを開催して、これからの社会を担う若い方に当社のものづくりを理解してもらう活動を展開しています。

高知県の高校生が修学旅行の最終日に東京支店に来場されました。食の可能性や食をめぐる課題を探求することをテーマに、包装フィルムに関する勉強会を開催し、食を活かした地域創生に関するテーマ発表を行っていただきました。

名古屋工場近隣の小学3年生を工場へ招き、ポテトチップスができるまでと題したDVD鑑賞と、実際にフィルムを生産している工場の見学を行っていただきました。後日、授業参観では工場見学に関する発表会が開催されたとのことです。



■ 展示会出展

国内外の展示会などに出席し、当社の製品の機能や用途を顧客に説明したり一般消費者にアピールしたりしています。また若手の社員が展示会に参加することで、商品知識などの向上に繋げるなど、社員の教育の場としても活用しています。

Specialty Packaging Films Asia 2017(3月)

世界の包装材料メーカー75社が参加した、食品を中心とした包装材料についての協議会が開催されました。当社もこの協議会に参加してプレゼンテーションを行い、同業関係者との交流を深めました。



メッセなごや(11月)

出展者と来場者相互の取引拡大、情報発信、異業種交流を図る日本最大級のビジネス展示会に出展しました。

その他にも多くの展示会に出展しました。



Dr.フタムラ

■ 事業場初期消火競技大会

大垣工場では地元の消防組合管内の事業所が参加する消防技術の競技大会に毎年参加しています。消火器及び小型動力ポンプの競技に参加し、標的を倒すまでのタイムを競いました。平成29年度は消火器部門で表彰されました。



TOPICS トピックス

地域未来牽引企業に選定

平成29年12月、経済産業省により2,148社が「地域未来牽引企業」に選定され、当社もその1社に選ばれました。これは地域の特性を生かして高い付加価値を創出し、地域の経済成長を力強く牽引する事業を積極展開又は今後期待されている企業が選定されております。

これからも地域経済の成長の中核となって活躍すべく事業展開を図っていきます。



❖ 従業員とのかかわり



社内行事による業務以外での従業員間の交流の場を設けて、全社内、事業所内の組織の活性化を図っています。

■ スポーツ大会

相撲、野球、剣道、卓球大会を毎年開催し、事業所単位で結成したチームによる対戦を行っています。選手の体力向上は勿論、運営委員、観覧者などのコミュニケーションの場としても活用しています。



■ 社員旅行

事業所の他部署の従業員とのコミュニケーションの場を設けることで、親睦を深めています。



■ 『新はつらつ職場づくり宣言事業』への登録



中央政府が推進する働き方改革について、岐阜労働局が『新はつらつ職場づくり宣言事業』を始めました。

岐阜県内で多数の事業場が登録され、当社では大垣工場と岐阜工場に登録証が贈呈されました。

今後工場内の労使が一致協力し、健康・快適で仕事のしやすい職場づくりを目指していきます。

❖ 安全衛生の取り組み



■ 安全活動

労働災害は前年度より5件増加し、休業災害も発生しました。葉傷、切創、熱中症によるものであり、保護具管理、体調管理を行うとともに、作業の機械化や作業者の教育、日常安全活動の充実を図っています。



挟まれ、侵入防止対策
駆動箇所全面カバー化



腰痛、挟まれ対策
作業負担軽減の装置導入
(吊上げ装置)



熱中症対策
対策キットの配備

❖ 防災への取り組み



■ 防災訓練

各事業場で定期的に防災訓練を実施し、万が一の事態に備えています。
消防避難訓練を実施し、避難及び消火器による初期消火、テント組立ての訓練を実施しました。また地元消防署の指導のもと、土嚢の作り方・積み方の訓練を実施しました。



■ 消防講話



名古屋工場にて地元の消防署職員に來場していただき、消防講話を開催しました。従業員が熱心に聴講し、防災に関する知識と意識の向上を図りました。

■ 普通救命講習

本社にて地元の応急手当研修センターの職員に來社していただき、実技演習を開催しました。受講した従業員が心肺蘇生法やAEDの操作方法等を習得しました。今後も定期的に開催していきます。



■ 各工場の防災対策

毎年各工場では減災に繋がる設備投資、職場内の改善活動を実施しています。



❖ 人材育成



■ 社内の人材育成

階層別教育や現場QCサークル活動などの社員教育を毎年継続して行っています。

「人の成長=企業の成長」という経営理念のもと、人材育成に力を入れています。

社内での教育には大きく2つの柱があり、階層別教育と現場教育に分かれています。

階層別教育では、新人教育から始まり各階層への昇格者を対象とした研修を行っています。

現場教育では、製造現場教育と営業教育という職能別教育と、フィルム事業部門での教育等、事業部門別の教育も行いました。

製造現場教育ではQCサークル活動、TPM活動、安全教育等を各工場で行いました。

■ QC研修

QCサークル活動を円滑に進めるための基礎知識を学ぶ研修も行っています。QC基本研修では紙飛行機の製作を通じてQC手法を学びました。

【QC研修体系】

実施内容	日数	主な内容
QC基本研修	2日	紙飛行機製作を通して、QCの基本的な進め方や7つ道具などを学ぶ
QCリーダー研修	1日	QCリーダーに求められる計画性・リーダーシップの発揮の仕方などを学ぶ
QCレベルアップ研修	1日	新7つ道具やIE・TPMなどの手法を学ぶ



■ 階層別教育

■ 新入社員教育

4月に集合教育を、6月に8日間のものづくり研修を行いました。ものづくり研修は課題を通して、経営全般を疑似体験するプログラムです。2年目の先輩社員が新入社員に対して講師を務めました。

工場現場実習では、総合職新入社員に対して、名古屋・大垣・岐阜の各工場にて一定期間実習を行いました。



集合教育



ものづくり研修



工場現場実習

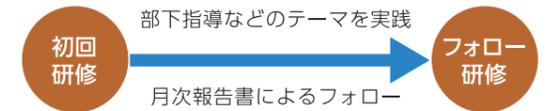
■ 昇格者研修

部長・課長・係長などの昇格時にそれぞれの役職に求められる知識を習得するための研修を行っています。経営理念・就業規則から始まり、労務管理・部下指導・安全衛生管理など多岐にわたるテーマについての座学を行いました。

【階層別教育の考え方】

主任研修・副事務主任研修・中堅社員研修は座学研修の後、現場実践、更に半年後にフォロー研修を行います。この研修では、テーマを設けて各職場で活動を行い、月次報告書を提出しました。講師と共にそのテーマの進み具合をフォローすることでレベルアップを図りました。

部長・課長・係長を対象としたインバースト研修でも、初回研修の後、同様のトレーニングを宿題として行い、その後再びフォロー研修を行うことで、知識・ノウハウの確実な定着を図っています。



■ その他の階層別教育

■ 自衛隊研修

昨年入社した社員が陸上自衛隊春日井駐屯地での研修に参加しました。

基本教練を中心に野外活動などの研修を受け、社会人として必要な団体行動や規律の重要性について学びました。



■ 安全環境に係わる教育

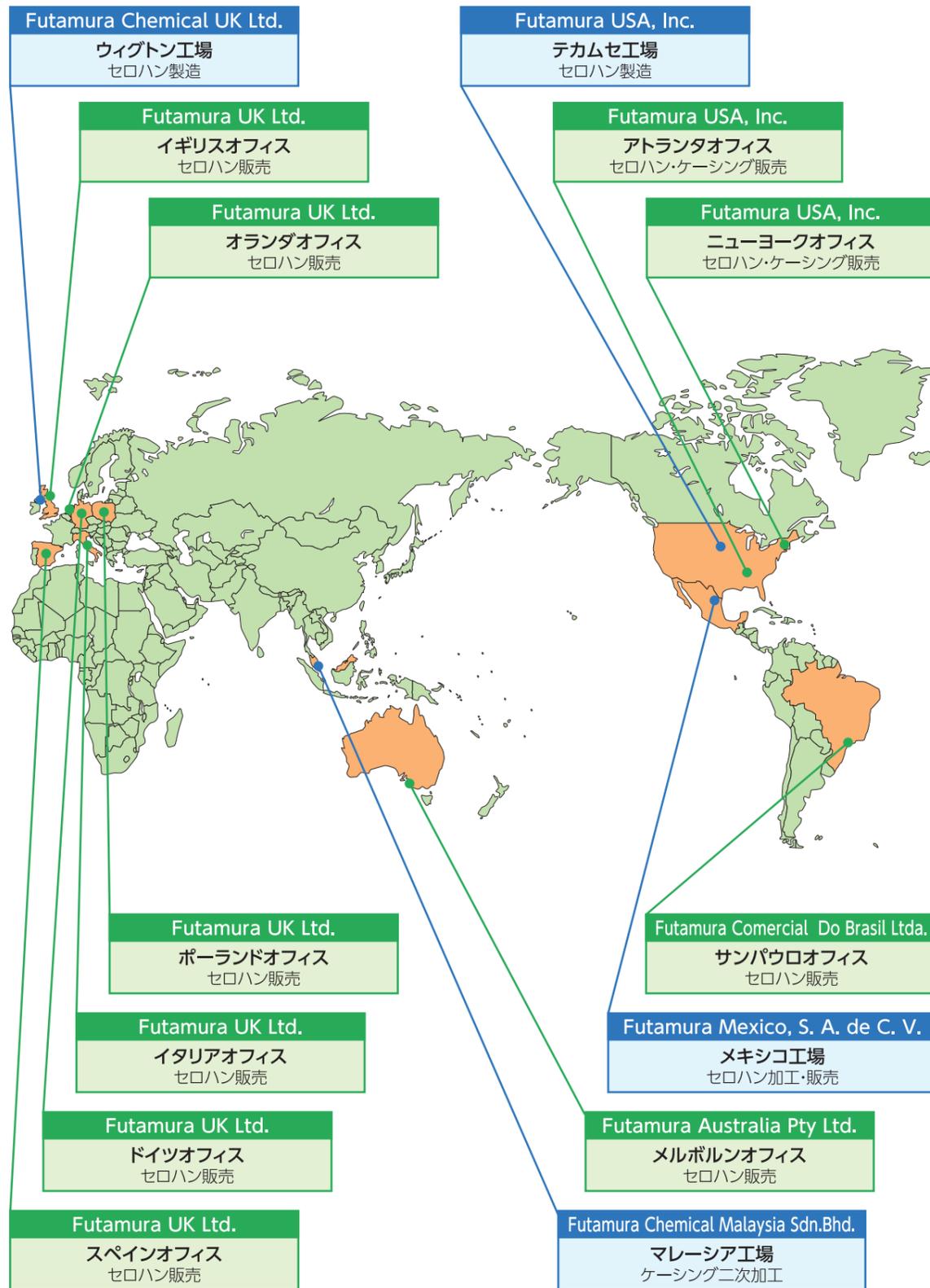
事業所の管理者と業務従事者が外部の講習を受講し、工場や職場での安全・環境管理の向上に努めています。

安全衛生
KYTトレーナー研修会
安全衛生関係法令コース
安全衛生スタッフ向けリスクアセスメント実務研修
RST研修
新任衛生管理者実務研修
リスクアセスメント専門研修(健康障害防止)
リスクアセスメント専門研修(爆発・火災防止)
特定化学物質作業主任者インストラクター
健康・衛生スタッフ

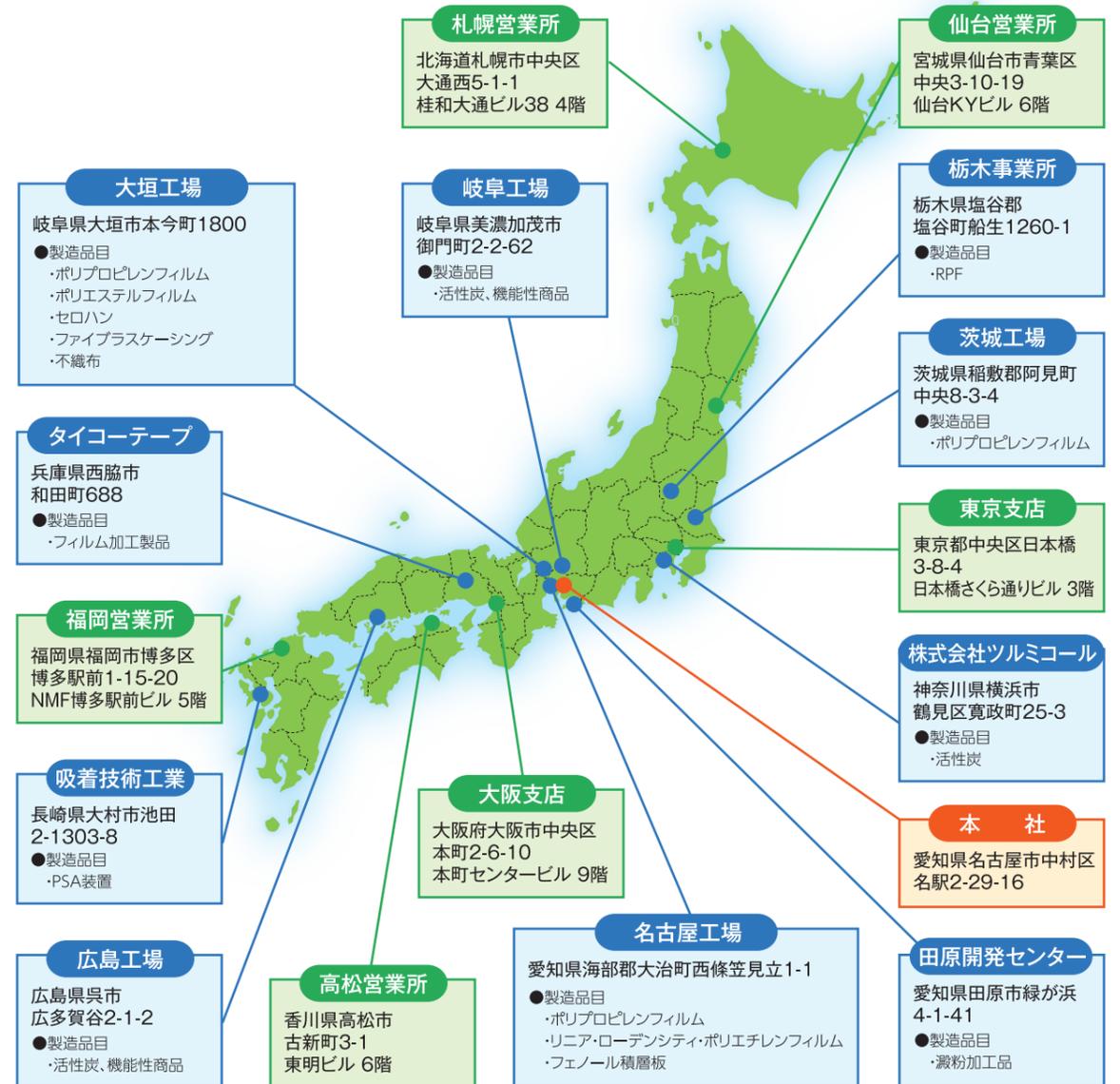
環境
公害防止管理者等リフレッシュ研修
産業廃棄物研修 基礎
産業廃棄物研修 実務
内部環境監査員養成研修

省エネ
管理標準の整備と活用
ファンの省エネ実習
空気圧縮機の省エネ実習
熱設備の省エネ探索

❖ 海外拠点



❖ 国内拠点



「CSRレポート」発行にあたって

お客様からの信頼を得るため、フタムラ化学の事業活動、環境会計、環境配慮の取り組み状況などをまとめました。

●報告対象範囲
報告対象事業場は、特記しない限り環境負荷の大きいフタムラ化学の主要な5工場(名古屋工場、大垣工場、岐阜工場、茨城工場、広島工場)、田原開発センターの合計6事業場としています。

●報告対象期間
報告対象期間は2017年4月1日～2018年3月31日までの活動を対象としていますが、一部直近の活動も含んでいます。

●参考ガイドライン
本報告書は、「環境報告ガイドライン2012年版(環境省)」
環境会計は、「環境会計ガイドライン2005年版(環境省)」
を参考に作成しました。

発行 / 2018年10月

企画編集 / フタムラ化学株式会社
〒450-0002
名古屋市中村区名駅二丁目29番16号
TEL(052)565-1212 FAX(052)565-1159

「この報告書に関するお問い合わせ」

フタムラ化学株式会社 本社 安全環境部
TEL(052)562-4125 FAX(052)565-1159
E-mail:Kankyo_info@futamura.co.jp

編集後記 / より見やすく、分かりやすくを目標に写真・表・図・イラストを適宜引用して作成しました。

次回発行 / 2019年10月